

# 東大野球部

## New! メールマガジン

### Vol.99

ついでに

梅雨明けの待ち遠しい今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

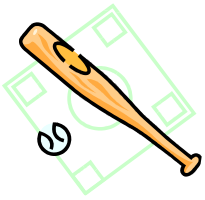
東大球場では先週末、ソウル大学、京都大学との三校定期戦が行われました。ソウル大戦では勝利を収めたものの、京大戦では田中、富田両投手を前に1点しか奪えず、今年も優勝杯奪還はなりません。この悔しさをバネに、一層練習に励んで参ります。一方で、共に文武両道に励む2校と親交を深めることができました。今回得た友情をこれからの糧にしていきたいです。(詳しくはブログ <http://tokyorocks2014.wondernotes.jp/>をご覧ください。)

今後とも、東大野球部を宜しくお願致します!

## 今後の日程

(国立戦)

7月13日【準決勝】①学芸大・S.O.S外語大



## 夏の思い出

【決勝】

- ②電通大 2:3:0 東大
- ①勝者 1:4:0 ②勝者

いよいよ夏の高校野球の地方大会が始まりました! 今回のメルマガでは選手5名に高校時代の熱戦について振り返ってもらいました。

**岩川 卓磨 (3年・内野手・半田)**

僕の高3年の夏の大会の初戦の相手はそれまで何度も勝ったことのある高校でした。

しかし、試合では思うように点がとれず、中盤に逆転されてしまいました。1点ビハインドの最終回、ツーアウトの時に僕は3塁にいました。すぐそこに見えるホームベースをあのときほど踏みたいと思っただことはありませんでした。しかし、結果は生還することはできず、1点差で負けました。あの3塁ベース上での感覚は今でもよく覚えています。とても悔しかったですが、あんな痺れる試合ができて、野球の楽しさを再確認することができました。



**見部 和英 (3年・外野手・学芸大附)**

夏の思い出と言われてまず頭に浮かぶのは、高3の夏の大会です。初戦で敗れ、大声で泣くメンバーもいる中で自分は結構冷静だったと思います。でもしばらくして、完全燃焼できなかったのだと気付きました。もっと上手くなれたのではないかと、いう後悔のような気持ちを味わったことを覚えています。六大学野球を目指したのも、この悔しさがきっかけです。

自分もあと3シーズンで引退ですが、その時は達成感をもてるように、精一杯日々の練習に取り組みます。



**桐生 祥汰 (2年・内野手・西)**

高校3年間の夏の大会は全て初戦負けでした。最後の夏は個人としては高校での最終打席をヒットで終えることができたのですが、高校野球の集大成ともいべき夏の大会で一度も勝てなかったという事実は、やはり引退後も自分の中に悔しい思いを残しました。その不完全燃焼の経験が、その後の受験を

乗り越え、大学でも野球を続けるモチベーションになったと思います。



### 風間 拓哉(2年・外野手・渋谷幕張)

僕の最後の夏は、朝から太陽が照りつける、うだるような暑さの日でした。そんな中、たくさんの同級生やOB、父兄が熱い応援をしてくださり感動したのを覚えています。自分達の力が出しきれず初戦敗退という短い夏でしたが、この悔しさが今に繋がっています。ただ、最後の打席で打ったタイムリースリーベースヒットの高揚感は忘れることはできません。



### 三木 豪(2年・投手・県立多摩)

僕にとって高校野球は、正直に言って悔しさの塊です。3年の夏は1回戦で負けてしまいました。やはり高校野球児がなによりも欲しいのは夏の大会での勝利です。3年間そのためだけにやってきたのにその瞬間を味わえず、その時はただただ悔しいと思うことしかできませんでした。でも、だからこそこのままじゃ終われないと思い、ここにいる今の自分があります。悔しさでいっぱい的高校野球でしたが、そこでの苦しい経験が今の自分を支える糧になっています。



### 編集後記

今回の特集はいかがでしたか。高校時代に味わった悔しさが大学でも野球を続けるモチベーションになっているようです。リーグ戦でも未だ勝利を掴むことはできず、雪辱に燃える日々が続いています。秋季リーグ戦では必ずや連敗から脱却し、暑い夏の甲子園以上に神宮を盛り上げたいところです。

今後とも東京大学野球部をどうぞよろしくお願ひ致します。

### お問い合わせ先

〒113-0023

東京都文京区向ヶ丘1-5-9 一誠寮

TEL&FAX 03(3811)5100

メールアドレス office@tokyo-jbc.net

メルマガについてのご意見、配信停止のご希望がございましたら上記連絡先までご連絡下さい。

